

「男女共同参画都市宣言記念式典&みなづきフォーラム2016」を開催

1 宣言・シンボルマーク紹介、取組事例報告

- 糸島市男女共同参画都市宣言（H28.3.25）の趣旨説明、朗読
- 市の男女共同参画シンボルマークの紹介
→応募作品57点の中から選考。糸島の「i」をモチーフに、男女が共に手を取り合っている様子と、笑顔輝く男女共同参画を親しみやすく表現した作品
- 九大生による事例報告
→女性が働きやすい環境を整えている市内企業の取組を事例集にして報告



↑シンボルマーク

2 記念講演会

- ワーク・ライフ・バランスの認知度向上のため、講演会を実施
【演題】 「日本一の監督から学ぶワーク・ライフ・バランス」
【講師】 秋山 幸二氏（元福岡ソフトバンクホークス監督）
【進行】 鬼橋 美智子（ラジオパーソナリティー）

- 日時 平成28年6月18日（土） 10：30開始
- 場所 伊都文化会館（糸島市前原東二丁目2番7号）
- 料金 無料（入場整理券を事前配布中）

※入場整理券は、男女共同参画センターラポール、人権・男女共同参画推進課で事前配布（1人2枚まで）

※託児（先着順・要予約）、手話通訳、要約筆記あり



秋山 幸二 氏

熊本・大分地震の影響と防災意識・体制の見直し

1 市内観光への影響

震災による被害は見られなかったものの、イベントの中止や宿泊施設のキャンセルなど観光面での影響が見られた。

■ イベントの中止

→ 110キロウォーク…4月16日～17日開催予定、参加予定者：約1,500人

■ 宿泊施設のキャンセル

→ 13の宿泊施設で、約100組、1,000人の予約がキャンセルされた。
ゴールデンウィーク以降、例年よりも若干少ないが回復傾向にある。
本州以北や海外の方から見れば、九州全域が震災に見舞われた地という印象
例年どおり多くの方に訪れていただけるよう、積極的なPRを行っていきたい。

本市への影響は限定的であるものの、被災地ではあらゆる分野で被害は甚大
災害への対策は、市民の安全・安心確保、定住促進の観点からも非常に重要であると再認識

2 防災意識の向上、地域防災計画の見直しに向けて

■ 今回の震災を受け、多くの教訓を得た。

- ・ 災害は、今まで想定していた規模やセオリーの範囲を超えて発生しうる。
- ・ 地震 + 豪雨など、災害が複合的に発生する可能性がある。
- ・ 被災時、支援を受けるための「受援体制」を整える必要がある。
- ・ 避難所、災害対策本部となる施設の重要性 など

■ 防災意識の向上・地域防災計画の見直し

- ・ 今回の教訓を生かして防災意識の向上、地域防災計画の見直しを進める。
- ・ 梅雨・台風の時期を迎えることから、九州北部豪雨被災地への視察を行うなど、災害対応策を強固なものにするための取組を早急に進める。

【市民の皆様へ】

自助・共助の精神を忘れずに行動を

■ 日頃の備え

- ① 非常時持ち出し品の確保
- ② 「我が家の防災ハンドブック」、
「災害ハザードマップ」の確認
- ③ 家屋や自宅周辺の点検

■ 災害時のシミュレーション

- ・ 大雨、台風、地震などの発生を想定し、地域や家庭で対応方法を確認しておいていただきたい。